

留 学 報 告 書

平成 29 年 9 月 4 日

学 部 法文 学科・課程 社会文化

氏 名 大樽菜摘

1. 留学先大学・学部 国名 ドイツ連邦共和国

大学名 トリア大学

現地到着日 (2016 年 9 月 26 日) 授業開始日 (2016 年 10 月 24 日)

現地出発日 (2017 年 8 月 14 日) 授業終了日 (2017 年 7 月 21 日)

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

パスポートの更新、留学先の大学への登録、借りる予定の寮へのデポジットの送金、航空券の予約

FRA空港からTrierまでのバスの予約、ビザ取得に必要な書類の準備

3. 自宅から留学先大学までの交通手段 (乗物の種類, 乗り換え地, 所要時間)

徒歩15分

バス3分 (月～金 18:00までは4番と14番、月～金18:00～2:00と土日祝日 6:30～2:00 85番)

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

基本的にすべての手続きはEinführung kursの中で行われる。

・住民登録、ビザ➡パスポートのコピー、証明写真 その他必要書類とともに記入した申請用紙を大学に提出。ビザは一か月後に自分で移民局へ受け取りに行く。

・保険 ➡ チューターとともに保険の事務所へ行き審査を受けたのち加入。

・電気料金の支払➡大学側が説明会を開いてくれその場で申請用紙に記入後提出。パスポートのコピー等は必要なし。支払方法は振り込み用紙を使うことがほとんど。

・銀行口座➡Sparkasseという銀行と契約。手続きはチューターとともに行う。申請用紙に署名をし、いくつか説明を受けた後口座開設となる。自分の住所あてに後日キャッシュカードが郵送されてくる。帰国す

る際は口座を解約する必要がある。これは自分で銀行に行って手続きをする。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

プレースメントテストはオリエンテーションプログラムが始まる二日前くらいに行われる。内容は筆記とリスニング（リスニングはない年もある）。筆記試験の内容は文法、会話表現、読解。選択肢がある問題もあるがほとんどが記述型式。読解のテストもちゃんとした文章で書く必要がある。穴埋め型式のものも一つか二つは出題される。リスニングの試験も記述で解答しなくてはならない問題が多い

テスト結果をもとにC1からA1までレベル分けされてクラスが編成される。オリエンテーションプログラムの初日にクラス分けが発表される。クラスのレベルが自分に合っていないと感じた場合、講師に相談すれば移動することも可能。コースの内容は文法、会話の練習、ディスカッション、グループプレゼンなど。コース最終日にもう一度テストを受け、その結果に応じて新学期からのDAFのクラスが決められる。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

DAFの授業は教科書に沿って進められる。時間は日本と同じ90分。説明ばかりでなく問題を解いたりペーパーワークやディスカッションも多い。テストの内容は文法・読解・リスニング・口頭試験など。量が多いので三日間に分けて行われる。

ドイツ人学生に混ざって受ける授業は先生によって違ってくるが、Vorlesungなどの講義形式のものはほとんど日本の講義と変わらないと思ってよい。テストは筆記試験か口頭試験から形式を選ぶことができる。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

Japanologie ・ Japanisch geschichte (Wintersemester)

内容は中学の日本史と変わらない。

・ Japanische Kulturgeschichte (Sommersemester)

日本文化と芸術についての授業。

・ Japanische Landeskunde (Wintersemester)

私は履修できなかったがほかの日本人の中では人気が高かった。

Kulturgeschichteの内容にもう少し政治や社会のことを掘り下げたような内容

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

学生寮は5つあるがどこに入るかは自分で選ぶことはできなかった。すべてアパートタイプ。ひとつの寮を除いてどこもトイレとシャワールーム、キッチンが付いた完全なる個室。IsepやErasmusの学生でなければおそらく個室があてがわれるはず。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）寮のカギは厳重に管理した方がよい。エントランス・洗濯ルームなども鍵がなくては入れないため、なくせば自動的に締め出されるほか、鍵の交換も自腹で非常に高額なので本当に気を付けなくてはならない。オートロックの寮もあるので閉じ込みも十分注意しなくてはならない。

各寮にあるクラブルームで週一回程度Stamtisch(飲み会)が行われている。参加は強制でなく、事前連絡も準備も不要。別の寮の会に参加してもかまわない。

入寮はオリエンテーションの5日前ほどから。事前にHausmeisterと相談して鍵の受取日を決めておかなければいけない。寮が閉鎖することはない。

困ったことは隣人の生活音である。壁が薄いためいろんな音が聞こえてしまう。自分もトラブルを起こさないよう気を付けて生活するべき。隣人の音が気になる場合は直接交渉しに行くか寮父さんに相談するとよい。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）Sparkasseという銀行と契約し口座を開設した。ここから家賃などを支払っていた。

自宅からは三井住友銀行の海外送金を利用していた。（着金までの日数が短いため）

カードの利用は手数料がかかったり、円から€に変換するとき損をするときもあるため現金を利用することが多かった。

スマートフォンの盗難、パスポートの盗難・スキミングの被害が増えているので人ごみの中では十分注意を払っていた。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

V gebäude (V棟) ➡ 留学生担当の教授の事務所がある。奨学金の手続きや何か困ったことがあれば相談できる。

Mensa (食堂) ➡ Campus1・2両方にある。様々な種類の料理を自由に選べる。

A/B café、C café → カフェテリア ABカフェには日本学の生徒が多く集まる。

Studiwerk → 主に住居のことについて管轄する組織の事務所がある。

Bibliothek → 図書館 PCルームも大きく印刷物があるときなどはここを利用していた。日本語の本も多くはないが存在する。

12. 現地案内（買物、銀行、レストラン、理髪店、美容院等の様子）

スーパーやドラッグストアはPetrisbergという寮の近くにある、駅前に小さなショッピングモールがありその中に大きいスーパーもある。薬局と郵便局は大学周辺に一軒、町中には数件ある。銀行はATMのみであれば大学構内に二か所、SparkasseはPortanigra前に本店があり、あとは町中に数件ある。

理髪店や美容院は町中に何軒かあるが、日本のような仕上がりを期待しない方がよい。ただ非常に安い（15€ 程度）Düsseldorf まで行けば、日本人の経営する美容院があるのでお金があればそちらに行った方が無難である。レストラン等はHauptmarkt周辺にたくさんある。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

クレジットカードをなくして日本で再発行したものを送ってもらったこと。いろんな人に手間と迷惑をかけてしまった。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

薬だけで治りそうな場合はなるべく自分で直していた。もし病院にかかる際は、まずアポイントメントをとり、指定された時間に行く。治療費は後日支払うこともできる。Düsseldorfには医療通訳の方がおられる病院や日本人医師がいる病院もあるので心配な場合はインターネットなどで探して、そちらにかかるのもいいと思う。

保険は、日本ですでに加入してきている場合でもビザの審査において不十分だと見なされれば現地のものに加入する必要がある。オリエンテーションの最中にチューターとともに全員保険取扱事務所で簡単な審査を受け、その時加入するかしないかを決められる。

15. お世話になった方々

_____ タンデムパートナーの日本学の学生二名、留学生担当の教授 (Herr Carsten Kluger) , 日本学の教授の皆
_____ さん、Einführungskursのチューター _____、寮父さん、日本の家族、島根大学法文学部社会文化学科西洋史ゼミ
_____ 教授 渋谷聡先生、島根大学教師教育センター 山根伸子さん、外国語教育センター 特別嘱託講師
_____ Schltz Roland先生 _____、国際交流課 松林由美子さん他職員の皆さん

16. 留学先国内旅行について (場所, 手段, 費用, 旅行社等)

_____ ・Berlin ➡ 一度目は長距離バス (60€)、二回目は飛行機 (往復120€) で向かった。Goeuroというサ
_____ イトで手配。

_____ ・Koblenz ,Saalbrücken、Brug Eltz➡ 電車で移動。Tunikaという学生証があれば無料。

_____ ・Schbelin ➡ 電車で移動 (往復15€)、DB (ドイツ鉄道) のアプリでチケットを予約 _____。

_____ ・Köln、Düsseldorf、Marburg、Kassel、Wetzlar➡ 電車で移動 (グループチケットで往復一人10€)

_____ ・Frankfurt ➡ 電車とバスで移動 (8€) _____ Flixbus社

_____ ・Heidelberg ➡バス (30€ ほど)

_____ ・München ➡ 電車 (14€)、DBを利用 _____ ・Hamburg ➡電車 (35€ ほど) _____ DBを利用

17. 気候と服装について

_____ 基本的に日本よりも涼しく、乾燥している。夏場でも暑い時もあれば気温が20℃を下回る日もあり、雨が
_____ 降ると本当に寒い。冬場は晴れ間が多かったが非常に寒い。

_____ 冬場は部屋の中が暖かいので厚手のコートかジャケットに下はそこまで着こまなくても大丈夫だった。夏
_____ 場は店の中や講義室のクーラーが効きすぎたり、突然気温が下がったりすることがあるので厚めのカーディ
_____ ガンなどがあると対応しやすい。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの (学用品, 衣服, 食品, 薬, 運転免許証等)

_____ ◎健康保険証、日本の大学の学生証 (国際学生証の方が汎用性が高い)

◎シャープペンシルの芯 ・レターセットや一筆書き（贈り物に一言添えたりするときに便利）

・辞書 ・浴衣か着物 ・インスタントの味噌汁、緑茶 ・鎮痛剤 ◎風邪薬

◎鎮痛成分入りの冷シップもしくは熱さまシート ・目薬 ・コンタクト ◎日焼け止め

◎ヒートテックの下着 ◎団扇、扇子、手ぬぐい等日本らしい雑貨（お世話になった人などにプレゼン

トすると非常に喜ばれる） ◎SIMロックフリーのスマートフォン

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

・地球の歩き方 ドイツ ダイアモンド社

フランクフルト空港の中での手続き、どう進めばいいかなど観光地以外の情報についても非常に詳しく書いてあり本当に助かった。インターネットのホームページでもビザの情報や旅の準備の仕方などが載っているのでお勧めしたい。

20. ホームステイの依頼方法

私自身はホームステイをすることは残念ながらなかったが、大学内のIZという国際交流グループがホストファミリーの紹介などを行っているのでそこから依頼することも可能。またインターネット上でも信用度は劣るかもしれないがホストファミリーを紹介してくれるサイトがいくつかあるのでそういう手段を使うのも一つの手だと思う。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往)	<u>80,000</u> 円,	(復)	<u>80,000</u> 円
2) 準備費用				<u>30,000</u> 円
3) 大学へ納入する費用				<u> </u> 円
授業料 (年間合計)				<u>500,000</u> 円
保険等その他の費用				<u>3,000</u> 円
4) 住居費 (光熱費等含む)				<u>570,000</u> 円
5) 衣服代, その他雑費				<u>100,000</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等				<u>20,000</u> 円
7) 留学先国内旅行費用				<u>37,000</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額				<u>1500,000</u> 円
現地通貨	<u>1.1</u> 万€	日本円換算	<u>150</u> 万円	

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

冬物のコートや教科書、必要度が低くかさばったり重くなりそうなものから優先してDHLのPacketweltを利用して日本へ送り返した。重さによって値段が違ってくるので、軽すぎると逆に損をすることもある。服は服だけで大きめの段ボールに詰めて一気に送った方がよい。段ボールはAldiなどのスーパーでも購入できるしDHLの店頭でも購入できる。箱詰めする際は念のため使用品と分かるようUsedと書いて印をつけるなどした方がよい。Z011(ドイツ税関)は非常に厳しいので、規則などはしっかり調べるべきである。お土産品など押収されると困るようなものはなるべく入れないようにするとトラブルが回避できる。

残った荷物はスーツケース二つ分ほどだった。復路の飛行機の中で携帯品・別送品申告書というものが配られ、事前に送った荷物や帰国時携帯している荷物についてそれに記入し、空港の税関に提出する必要がある。酒類・肉類は持ち込み制限があるので注意。

23. 留学して得たこと(全般についての感想文)

「ドイツって何?」「ドイツ人ってどんな?」そう問われて我々日本人が思い浮かべることは多分このような言葉だと考える。「真面目、勤勉」「時間に正確」「ビールとソーセージ」「木組みの家」「きれい好き」など。ただ実際に一年間その地で暮らしてみると「それらはあまり正解と言えないのではないか?」と思うようになった。交通機関は息を吸うように遅延し、家の中はきれいだけどゴミのポイ捨てはものすごく多い、ビールと同じくらいワインの生産も多い、家の特徴は地方ごとで全く違う、そしてフランスと変わらないくらいの多民族国家であること。改めてドイツとは何か、ドイツ人とは?ヨーロッパとは?そういったテーマについての知識を得たこと、そしてそれを踏まえて今度は「日本人とは何か?」ということのを再考する機会を与えていただいたことが私が留学生活の中で得た財産なのではないかと考える。

次に欧州の中のアジア人という「移民」そして「マイノリティ」として生活した経験、これも私にとって留学中に得たもののひとつだ。前述の通り、ドイツも移民が多い国である。トルコから、旧ソ連から、東南アジア、中国、中東、アフリカ、ありとあらゆる国からいろんな背景を持った人々がやってきて暮らしている。その中で外国人留学生(=移民)として生活するところでも見えてくるものがあつた。移民が「本当の」ドイツ人にどう思われているかだとか、移民のドイツ国内での社会的地位だとか、そういうことである。アジア人でしかも女性である私はその中でも少数派であつた。そして言葉が完璧にはなかなか話せない以上立場がいいと感じたことは多くない。だからより一層いやな思いをすることも多かつたが、なぜこんなことが起こるのかと考えていくうちに「移民を受け入れることで生じた問題」を知って行くことができた。日本も

これから外国人観光客や移民の受け入れが減るということはないだろう。人々に加えて軍事や貿易、経済協定、政治といった面からも「これから日本が他の国と人々とどう付き合っていくべきなのか」「その時私たちはどういう行動をとればお互い気持ちよく生活できるのか」こういったことについてなるべく正解に近い答えを早く考えなくてはいけないとも感じる。

学習面での成果もまた、私の得たものである。以前大学の講義で、「留学の意義は語学学習だけではない」ということを学んだ。確かに文法や読解、リスニング力は日本国内であっても力を伸ばすことができる。だが留学中でなければ大きく伸ばせられない力もあると考える。「より正しい発音」と「より自然な会話表現」である。どれだけ文法が正しくても、発音がただしくないとちゃんと理解してもらえない。「Rotenburg」も日本式の「ローテンブルク」という発音では「何て言ったの?」と返される。「Guten Tag」の発音も正しくは「グーテンターク」ではない。ドイツ語話者に囲まれて一年をすごしたことで、日本にいると気がつかない細かいことまで学びとることができた。そして会話表現も同じである。友達との会話や教授や先生との課題のやり取りの中で、「ここはおかしい」「ここはこう言うよりこっちがよりあってる」などと指摘してもらいながら、よりドイツ人らしい会話の仕方を身につけることができた。

最後に前述の3点と同じくらい大きな変化は、さまざまな国籍の人たちと交流ができたことである。留学をしなければ絶対知りあうことがなかった人々と話したり、食事に招きあったり、時にはともに旅行をする中でドイツ以外の今まで調べもしなかった国について深く知ることができたし、この国の言葉を話したい、勉強したいという興味がわくきっかけになった。本当にこれは貴重な体験だと思う。

一年という時間は長かったようであっけなく終わってしまったようでもある。何度も失敗したし、留学生活に悔いがないと言えようそになる。ただ、留学生活の終わりはひとつの区切りであり、次の目標へのスタートラインであると考えている。この交換留学で培った自分の知識と力を維持しながら、さらに伸ばしてゆくこと、活用していくことがこれからの私のやるべきことである。

最後にお世話になった両親、国際交流課の皆さん、社会文化学科 歴史と考古コース教授 渋谷聡先生、教師教育センター 山根さん、外国語教育センター Schlitz Roland先生、友人たちに感謝を申し上げます。ありがとうございました。